

“床の光は心の光”、“清掃は心を磨く授業”

～清掃指導をがんばろう～

平成24年1月17日発行

毎日行う清掃活動。子どもたちは意欲的に取り組んでいますか？

(私も若いころは、清掃指導がうまくいかず、ずいぶん悩みました。)

短い時間での活動ですが、清掃がしっかりできる子どもは、学習や学校生活にも、意欲的に取り組めるようになります。



1 共に汗を流し、範を示す。 ～どう頑張ったらよいか教える。～

清掃をすることを楽しくさせるためには、頑張ったという達成感を味わわせることです。そのためには、何を、どのように頑張ったらよいのかを、子どもたちが理解していることが大切です。

まず、一人一人の清掃分担が明確になっていますか？ 各自の活動の目標をもたせていますか？

担任は、その上で、自ら意欲的に取り組み、範を示すとともに、具体的な指示を出していきます。



清掃では、ある程度の素早い動きも必要であるし、丁寧さも必要です。どの動きは素早くすべきなのか、どの活動は丁寧にすべきなのか、一緒に活動しながら教えていきましょう。

①机の移動は、スピーディーに！

教室掃除では机の移動に時間がかかります。机の持ち方や運び方を教え（安全面も配慮）、机を持っていない時の移動は速足でさせると、かなり速く机が移動できるようになります。

②雑巾がけの前の掃き掃除担当が遅いと、全体が遅れる。

私は、教室掃除の掃き掃除担当を3人にしていました。教室の隅から、3人が縦一列に並んで掃きます。一人目は、目に見えるごみを中心に、少し早いスピードで掃いていきます。2人目は、その後を追いつつ、掃き残したごみを掃いていきます。3人目は、教室の隅等

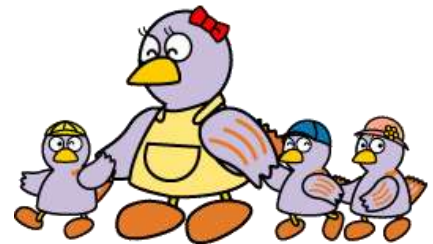


を丁寧に掃きながら進んでいきます。(慣れないうちは、担任が一番先頭で掃き掃除をします。速すぎて単に雑な掃き掃除ではダメですから。)

雑巾がけ担当は、掃き担当3人目の後を追いながら、自分の肩幅程度を右、左、右、左と横に拭きながら、進んでいきます。(その際には、必ず膝をついて拭かせること。隅までしっかり拭かせることが大切。)教室の壁まで進んだら、雑巾を裏返して、Uターンをして拭いていきます。(一度濯いだ雑巾は、4回使えます。)雑巾がけ担当の二人目、三人目は、後に続いて拭いていきます。

担任も雑巾がけを一緒にします。(掃き掃除をすることもありますが、大体は、一番大変な雑巾がけをやっていました。)力を入れて床を拭き、ハイペースで机を運ぶと、冬でも汗ばんできます。

※私はこのように前の人につながって清掃する方法を、“金魚のフン作戦”と呼んで指導していました。(きれいなネーミングでなくてすみません。)



2 清掃の“こつ”を教え、活動を認める(称賛する)。

自分の頑張ったことが認められると、さらに頑張ろうと思いますね。窓を拭いた後、「ああ、きれいになったな。」と子どもが実感できたら、『やってよかった。明日は隣の窓もピカピカにしよう!』となります。さらに担任が、「Aさんが拭いてくれた窓、すごくきれいだね! Aさんは、窓拭き名人だね。」と称賛したら、Aさんの意欲はさらにアップですね。

そのために大切なことは、“窓ふきのこつ”を教えることです。(“窓ふきのこつ”はいろいろあると思います。最近では、水をスプレーして、ゴムベラで水滴をとる方法なども紹介されているようです。)



“濡れ拭きをした後、乾拭きをする。反対から見て、汚れが残っているところは、息を吹きかけてもう一度乾拭きをする。”窓拭き用の洗剤を使わなくても、たったこれだけを教えるだけで、窓拭き名人が生まれると思います。(特に今の時期は、窓の汚れが目立つ時なので、効果的です。)

雑巾がけの仕方については、1に書きました。しかし、床はそう簡単には光ってきません。特に今の床は、ワックスをかけないと・・・。

自分は、雑巾がけ担当の子どもには、雑巾の汚れ、バケツの水の汚れを褒めました。雑巾の濯ぎ方、絞り方、ほうきの掃き方、床の拭き方、机の運び方、窓の拭き方など、それぞれに“こつ（やり方）”があります。担任自身が子どもたちと一緒に清掃しながら、“こつ”を学びましょう。そして、子どもに教えてあげてください。

※学校校舎の材質、清掃のやり方で、“こつ（やり方）”は様々です。まず、自らがやってみることで。

清掃後の反省会（認める会）も大切です。子どもたちに今日の清掃活動を自己評価させ、担任からもねぎらいの言葉をかけましょう。



3 “気づきの清掃”をさせる。（自主的な活動を奨励する。）

役割分担の活動が終わったら、“気づきの清掃”をさせましょう。共有ロッカーの整頓や清掃、窓や戸の棧や溝の清掃、壁磨き、草花の世話等、普段の役割分担以外に活動できる仕事は結構あります。特別教室ならば授業で使用している用具の手入れもできます。



まずは担任から「こんなところもきれいにできるよ。」「黒板の下の壁を磨いてもらえるかな。」などと、活動のヒントを与えたり、お願いをしたりします。自分の分担がなかなか終わらない友だちを手伝ってあげることも大切です。

普段清掃できていないところは、意外と汚れているものです。きれいになった実感がつかみやすいところが多く、子どもたちは喜んで活動するようになります。慣れてくると、「先生、〇〇もきれいにしていいですか？」「今日は、〇〇をそうじしたら、雑巾がこんなに汚くなりました。」というように、自分からきれいにする場所を見つけて活動するようになります。

だんだんときれいにする喜びが増して、清掃に一生懸命取り組むようになります。



※「無言清掃」を取り入れ、効果をあげている学校もあります。